

5月19日にスイス・チュリッヒにて開催された「Corinphila」セールに出品された、“贈呈シート”18点は、私が落札し、昨日現品も無事に到着いたしました。弊社の「ホームページ立ち上げ」時に、より詳しく報告するつもりではありますが、ご多忙中にも拘らず、無理な問い合わせに快くお答え頂いた皆様のご好意により、はっきりした素性が判明いたしました。

素早くコンタクトをいただき、値段一任にてお買い上げの意思表示をいただいた5名の方も含め、資料・情報をお寄せいただいた方々に、本日現在判明したデータを添え、現品のカラーコピーお送りいたします。

印刷は純白と言える白紙で透かしは無く、無色透明糊が引かれています。もっとも印象的に近いのが、昭和白紙5円・10円の紙（に透かしを入れた）と糊です。何れも、実際に製造した切手に使った原版を用いて印刷し、小型シート風に仕上げられています。目打は一見したところ、「全型」のように見受けられます。

「製造面のデータ」

額面	全体サイズ	目打	印面サイズ等
1昭5厘	105 x 147	13 x 13.5	18.2 x 22.3
1昭1銭	105 x 147	13 x 13.5	18.2 x 22.3
1昭2銭	105 x 147	13 x 13.5	18.1 x 21.8
1昭4銭	105 x 147	13 x 13.5	18.1 x 21.8
1昭14銭	105 x 147	13 x 13.5	18.2 x 22.3

1次昭和は13年2月までに発行された5額面で版式は平台です。ちょっと意外だったのが、2銭と4銭が最初の印刷の輪転でなく、平台印刷だったこと、もっとも、この額面の場合は窓口への出現時期から判断して「平台」であっても、矛盾はしないと思います。

昭白5円	105 x 147	13 x 13.5
昭白10円	105 x 147	13 x 13.5

いずれも凹版印刷です。

富士箱根1.5銭	105 x 148	13 x 13.5	
富士箱根3銭	105 x 147	13 x 13.5	
富士箱根6銭	105 x 147	13 x 13.5	
富士箱根10銭	80 x 127	13 x 13.5	縁は縮小と思われます。

印刷形式はグラビアで、スクリーンは180線です。

愛国2銭	105 x 148	13.5
愛国3銭	105 x 147	13.5
愛国4銭	104 x 148	13.5

印刷形式はグラビアで、スクリーンは180線です。このシリーズのみ、目打が

13・5＝発行されたシートと同じピッチというところに、製造者の確固たる意思を感じます。

帝国議事堂1・5銭 105 x 131 13 x 13・5 縁は縮小と思われます。

帝国議事堂3銭 105 x 148 13 x 13・5

帝国議事堂6銭 105 x 148 13 x 13・5

帝国議事堂10銭 105 x 132 13 x 13・5 縁は縮小と思われます。

印刷形式は凹版です。

いずれの切手も、神経質なほど、窓口から発売されたものと、製造面の思想は一致しており、透かしが無いことを除けば、単片にくり抜けば、正規には発売された物と区別できません。

今回のセールに出品された18点の他に、「制定シート」の同種のもが存在したはずで然るべき筋を当たって、問い合わせをしておりますが返事を得ておりません。

オークションから得た情報では、持込みはアメリカからなされており、「チェコ」に何らかの接点があるとの情報には接しておりません。出品時の記載も、「アメリカ軍関係？」の贈呈シート？みたいな説明でしたし、編集に携わった、グレッグ・トッドの認識はその通りだったと思われます。

落手した物の内、富士箱根は、ビッドの時点で、入札代行として引き受けておりましたので、落札値に若干の手数料を加算して依頼者に渡します。昭白高額、愛国、議事堂はいずれもセットを崩すことは出来ず、また既にご希望者からのコンタクトがありました。

昭和切手はセット売りでなくても良いのですし、全ての資料でこのマテリアルの代表として図版に使われているのが「乃木2銭」です。オークションに出して、覚悟を決めて身の細る思いをする人の表情を見たくも有るのですが、日頃のお付き合いの度合いに免じてプライベートの取引で了解いたしました。昭和の3点も、是非にとのご希望がありました。従いまして、オークションにて、競っていただけるのは「1次昭和1銭」1点のみになります。プライベートでの販売値は、@・・・万円均一（富士箱根を除く）とせざるを得ず、もう少し早く、この情報を正確に得ていれば、より楽しきディールが出来たかと思えば些か残念な思いもいたします。ただ、何れの商品も入札時に想定した方々から素早くかつ的確なアクションを頂きましたので、迷うことなく決断できました。手探り状態のビジネスが一件落着くということを報告して、取敢えずのお知らせといたします。

「文献情報」

該当の小型シートに関して、直接・間接に触れた文献が幾つか見つかりました。後述する似て非なるものも有り、これと誤認されて語られていると思われる表現も有りますので分析して見ます。

決定的な資料で、議論の余地なき記事が出ています。「切手趣味17巻6号」S13年6月に概略が、「切手趣味18巻3号」S13年9月刊に詳細の報告が図版入りで報告されています。

1938年6月26日から7月4日まで、チェコの首都プラハで開かれた「プラハ1938」に日本通信省が19種の切手、原版1枚刷り、目打ちつきの物を出品したとの記事です。サイズは116 x 163ミリと書かれていますが、手元に有る現物は105 x 147ミリ、掲載された図版のバランスから判断すれば、記事が現物に当たらず、データだけで書かれた為、誤認されたかも知れません。この時の切手展への出品者は、三井高陽、吉田一郎の両氏で、切手趣味の記事では、まさに「19種の原版シート」がスターの如く取り上げられてました。残念なことに、この時の図版には制定シートの姿は全く見られません。

その後のデータは、「全日本郵趣84号・付録」に乃木シートの図版と、一覧表が出ています。児玉氏の大著「乃木2銭」191ページに、やはり乃木シートの図版が出て、その出所は「切手趣味70巻4号」で、同氏の記事にはこれが「プラハの乃木」の如く述べられています。ただ、この写真はどう見ても、無目打で、写真の関係で目打が消えたものとも思えません。また、現物を並べたのでは有りませんので、断言は出来ませんが、「プラハ」は平台、「70巻」はゲーベルの様に見られます。

又聞き情報では有りますが、1991年の国際展のあとに、通信博物館所蔵品の特別展示が複数回なされております。部分的な記事は「郵趣」等にも出ており、一部は写真も頂きました。この時の展示品は、直接「プラハ」に結びつくものではなく、より広範囲のプルーフや無目打原版1枚刷りの小型シート的なものが多かったようです。制定シートも出ましたが、「1面シート」でなく、4面掛けの未裁断のものだったとのこと。

この時の展示品と、「プラハ」は似て非なるものなのですが、情動的に入り交ざって伝えられている部分もあるようです。今回、私が落手したものは、製造面の特徴から、「プラハ1938」の展示を目的として、極少数調整されたものの1点だとは思いますが、残されている図版の現物では有りません。S13年の図版が展示された現物だとすれば、それは未だに姿を見せておらず、また今回のマテリアルの出所が「アメリカ軍・・・」ならば、チェコの次か前の国際展の同様のものも、突然市場に現れるという可能性もないのでは・・・ということにして置きましょう。